

ストラスブールで学んだ、あるいは獲得した3つのこと

理学部1年 山ノ内 勇斗

僕がストラスブール大学のフランス語研修を通して学んだことは、フランスの食に関する生活、フランスと日本の生活の違い、そしてフランス語の能力についてである。

フランスの食にはお酒は、特にワインは重要な役割を果たすのだと感じた。家庭訪問でフランスに住んでいる方のご家庭にお邪魔させていただいた時、歓迎の食事の際にワインが出てきた。そして、目の前のワイングラスに勝手に注がれた。ここで驚いたことは、昼間の食事でお酒が出てきたこと、そして、目の前のグラスに特に何も断りもなく注いだことである。日本で生活している僕にとって、親が夕食にお酒を飲んだり、飲み会でお酒を飲む姿しか見てはいないが、基本的には夜に飲むものだと思っていた。そのため、昼からお酒の中でもアルコール度数の高いワインを飲むことにとても違和感を感じた。また、日本では初対面の人に対し、飲みたい飲み物をきき、その後で提供する。しかし、フランスにおいてはワインが先に注がれる。他に希望する場合は自己申告で飲みたい飲み物を伝えなければならなかった。のちに聞いたら、特にワインが目の前に注がれても、自分が飲みたくないと思ったら飲まなくていいということである。日本人の感覚としては目の前に注がれたら、そのまま残してしまうのが申し訳なく、多少無理をしても出されたものは消費しようとするものであるが、フランスでは自分の意思で飲む飲まないを決定する。この出来事についてフランス研修に参加した人で共有した際、どのご家庭でも特に断りもなくワインが注がれ、そして、日本人的な感覚で残した際に罪悪感を感じたと聞いた。異国の考え方を受け入れることは容易くはないのだと肌身で実感した。しかし、異国の考え方という言葉は表面上ではなく、実体験できたことはとても貴重な体験であった。

フランスと日本との生活の違いは数え切れないほどあり、毎日日本との違いを感じていた。まずはじめに思ったのは、日本以上にスリや盗難が多いと言われている割にはお店側のセキュリティが日本よりも緩かったように感じたことである。野菜は基本量り売りで、自分で品種などを選び、そして値札シールを貼る。しかし、レジ打ちの人は特に中身とシールの品名があっているかなどと確認していない。更に驚きであったのは買い物かごはお店の入り口にあるが、買い物をしている人たちは基本的に買い物かごを持つことなく、自分たちが持っているエコバック、もしくは自らのカバンに商品を入れている。日本で暮らしていると万引きしたい放題の状態ではないかと思うが、全員が全ての商品をお会計をしていた。また、トラムや電車に乗るときに改札はなく、警察官が車両内で巡回しており、声をかけられたときにチケットを持っていないと罰金というシステムである。わざわざみんなが混むような改札を通らずとも乗れることは非常に素晴らしくて利用しやすいが、トラム内で警察官に声をかけられたことは二週間のうちにはなく、正直トラムも無賃乗車が悠々とできてしまうように見えた。しかし、”やってもいいけど、見つかった時は自己責任ね”とでも言ってるかのようにも感じた。日本においては、ルールを守らない人は一人たりとも許しはしないという管理社会であるように見え、フランスは自己責任でお願いしますというように自由ではあるが、見えない重圧がかかっているように感じる。どちらの社会が居心地がいいか

は人によるが、その国の国民性がルールに現れていると感じた。次に祝祭について、日本とフランスの違いは宗教の違いからくるものである。調べてみたらフランスではキリスト教に関連した日、また、歴史上大きくフランスが変化した出来事などの日にお祭りをを行う。日本では神道に基づいた神様を祀るためのお祭りや、仏教に基づいた仏様に向けたお祭りが行われる。歴史上の日本が大きく変化した出来事の日には記念日として休日となることが多い。また、お祭りに関しても、日本では屋台があり、お友達とかで出かけたりするのに対し、僕が家庭訪問で行った先のお祭りは屋台はなく、街全体で家族と楽しんでいる様子であった。フランスの観光では知ることのできない、より深い生活感に触れることができたことは貴重な体験である。僕は名古屋大学で留学生に向けて日本人との交流イベントを企画したりするサークルに所属している。サークルの活動では様々な国の人と関わる機会があり、それぞれの国で価値観が違うことは理解してはいたが、今回の研修で肌身を通して実感した。今後のサークル活動では今回研修の経験を生かし、より色々な視点を持って企画することを意識していきたいと思う。また、フランスでの経験を友人やサークルの人たちと共有することによって、より多くの人に価値観の違いを共有したい。

フランスではストラスブール大学のフランス語の学校に通っていた。日本にいる時よりもより多くフランス語に触れることができた。授業では実用的なフランス語から文法に至るまで、様々なことを学んだ。特に印象的だったのはフランス語の歌である。フランス語の歌を日本にいるときは聞いたことはなかった。フランス語の歌は邦楽や洋楽とは違った独特の雰囲気を持っていることに気づかされた。よりいろんなフランス語の曲を聴いてみたいと思ったのと同時に、フランス語をより勉強して意味もわかるようになりたいと思った。日本に帰国した後も、友人のオススメのフランスの歌を聞いている。フランスの日々の生活の中で、スーパーマーケットや、飲食店でフランス語を使う機会はたくさんあった。まだ、フランス語は不自由ではあるが、その中でも使っていく中で伝わることの喜びを感じた。英語を学びたての時にも似たような経験をしたが、言いたいことがうまく言えないと悔しいし、言いたいことが伝わるとより喜びを感じる。言語間の問題は翻訳機等が開発されて円滑なコミュニケーションが簡単にできるようになり、言語学習の意味がないと言われ始めている。でも、やはり自分の言葉で伝えることの喜びは大きい。そこに言語学習の意味が存在すると思う。僕は今後もフランス語の勉強を続けていきたい。

フランス研修ではフランス人の生活、文化に触れることができた。フランスについてあまり知らなかったけれど、なんとなく憧れがあった研修前とは違い、フランスについて深く知った研修後、フランスのことがより好きになった。より知りたいと思い、将来またフランスに行ってフランスで生活したいと思う。そのためにフランス語の勉強を続けていきたい。